

ESD-J2013 年度 事業計画

<2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日>

I. 2013 年度（第四期 2 年目）の活動方針

ESD の 10 年最終年がいよいよ来年に迫り、2014 年秋に開催される「ESD に関するユネスコ世界会議」の準備も本格的に始まっている。しかしながら、ESD の認知度は提唱国の日本ですら、いまだ不十分という認識に立たざるを得ない。2014 年を、ESD がより広範に知られる契機とするために、これまで ESD に取り組んできたさまざまなステークホルダーとともに準備を進めていくことが必要である。

また、2015 年以降も継続的に ESD を推進していく仕組みをつくることは、教育の 10 年の終了にあたって必須であり決定的に重要である。ESD-J は、ESD の 10 年提案の一方の当事者（日本の市民）としての責任を果たすべく設立された組織であり、ESD 推進のための国内外のネットワークの構築や ESD 推進に向けた政策提言などを使命としてきた。10 年の最終年を前にして、2015 年以降の具体的な推進の仕組みを提案することは ESD-J に課された最後のミッションととらえ、地域の ESD 推進を底支えするプラットフォームとしての「ESD 全国センター」構想の具体化を呼びかけ、進めていきたい。

そして、ESD-J という民間独自の取り組みとしては、「ESD コーディネーター育成の事業化」「地域と連携した学校における ESD の推進」「ESD におけるアジアの NGO ネットワーク設立」「震災復興と ESD をつなぐ取り組み促進」を柱に、2014 年に向けて取り組みを加速させていく。さらに、2014 年に向けますます活発になるであろう全国および国際的な ESD の動き、世界会議に向けた情報を、タイムリーに発信していくことは ESD-J の存在意義をかけて取り組むべき事業と認識している。

限られたリソースで最大の成果につなげていくために、会員の皆さまの力をいただきながら、理事・事務局一丸となって取り組んでいく。

II. 2013 年度事業計画

1. 2014 年 ESD 世界会議および 2015 年以降の推進体制づくりに向けた準備及び提言活動

【2014 年に向けた目標】

2014 年の世界会議およびその関連イベントにおいて、これまで ESD に取り組んできた多様な主体の活動と、2015 年以降の ESD 推進の仕組みについて、オールジャパンで発信できる場が作られている。

2015 年以降の ESD 推進の仕組みのイメージが関係者に共有されており、そのハブとなる「ESD 全国センター」実現に向けた準備が始まっている。

【事業内容】

- 1) 2014年のESD世界会議をオールジャパンで迎える準備
「ESDの10年・世界の祭典」推進フォーラムとの連携により、「地球市民会議」および「ESDテーマ会議」を共催すること等を通して、これまでESDに取り組んできた多様な主体の発信力の強化支援に取り組むとともに、オールジャパンでの発信の場づくりに向けた提言活動を展開する。

- 2) 2015年以降のESD推進体制の検討と提案
ESD推進機関や行政機関、議連、産業界、関係者と共に2015年以降に残すべきESD推進の仕組みとして、地域のESD推進のあり方やESD全国センター（仮称）のあり方（機能や組織）を検討し、その実現に向け関係主体に働きかける。

2. 地域におけるESD推進とコーディネーターの社会化推進

【2014年に向けた目標】

多様な分野のコーディネーターがESDの視点やスキルを身につけるESDコーディネーター研修のカリキュラムを確立するとともに、テキストブックを発行する。また、多様な分野のコーディネーターが学びあう場、ESDコーディネーターのネットワークが広がっている。

【事業内容】

- 1) ESDコーディネーター育成の事業化
OJT型とミックス型のコーディネーター育成研修開発およびモデル実施を行い、コーディネーター育成研修カリキュラムを作成する。また、ESDの理解の促進と、コーディネーションのスキルを磨くビデオ教材開発に取り組む。これらを通して、ESDコーディネーター育成の事業化の基礎を作る。（地球環境基金助成、パナソニックNPOサポートファンド助成等）

- 2) 全国ミーティングの開催
多様な主体の連携によるESDの実践地域・岡山市にて、2014年に向けた多様な主体の動きの「見える化」と、コーディネーションの在り方を学びあうことを目的とした全国ミーティングを岡山市で開催する。（岡山市共催、地球環境基金助成）

3. 学校と地域が連携したESD推進の仕組みづくり

【2014年に向けた目標】

教員向け、学校支援コーディネーター向けの、学校と地域をつなぐESD研修を各地に展開するとともに、学校と地域の連携によるESD実践事例の「見える化」が進んでいる。

【事業内容】

- 1) 学校と地域の連携による ESD の情報共有、研修の実施
各地で実践されている学校と地域の連携による ESD 実践について、会員メーリングリスト等を通じて情報共有を進める。地域担当理事は率先して各地の ESD 実践事例の発信に取り組むことで、会員の発信を促す。また、地域担当理事および会員と連携し、学校における ESD 実践普及のための研修を模索する。
- 2) 学校における ESD モデルカリキュラムの普及
持続可能な地域づくりに欠かせない人材育成の一環で、特に学校における ESD 実践カリキュラムをモデル化し、地域の特性に合わせた実践展開ができるように支援・貢献する。

4. 国際ネットワーク推進

【2014 年に向けた目標】

NGO によるアジア ESD ネットワーク (ANNE) を設立する。また、国内外の ESD 推進に関する情報流通を支える体制が整っている。

【事業内容】

- 1) アジア ESD ネットワーク (ANNE) 構築に向けた取り組み
2014 年のアジア NGO・ESD ネットワーク設立に向け、ANNE で連携している団体等とともに、具体的な活動を起こすためのファンレイズを行う。
- 2) ESD に関する国際的な情報の収集・提供とそのための体制の強化
ユネスコほか ESD を進める国際主要機関が発信する関連情報を国内に提供するとともに、ESD-J の取り組みを海外へ発信するための体制を強化し、メーリングリストやウェブサイトを通して情報提供を行う。

5. 震災復興と ESD をつなぐ

【2014 年に向けた目標】

復興支援や被災地との交流からの学びを全国各地の ESD に生かす、また、ESD を震災復興のための人材育成に役立てる、といった双方向の ESD モデル実践が生み出されるとともに、防災教育・気候変動を含めた減災教育の視点を持った ESD の「見える化」が進んでいる。

【事業内容】

- 1) 被災地の復興・再生と持続可能な社会づくりをつなぐ ESD の情報交流強化
非被災地における復興への思いや取り組みが薄れつつある現在、被災地への関心を維持し、被災地との交流を生み出し、そこからの学びを地域づくりや減災教育に還

元できるような ESD 実践の共有を進める。また、『未来をつくる BOOK』の実践報告をウェブサイトで発信することで、防災・減災教育と ESD をつなぐ働きかけを行う。

6. 普及啓発、情報収集・提供およびインフラ構築

【2014 年に向けた目標】

ESD-J が 2014 年までに実現したい仕組みづくりに向けた取り組みや、各地の ESD 実践の広がりをもっと細かく発信していくことで、ESD をともに進める仲間が大きく広がっている。また、ESD 推進機関との連携により、ESD 関連情報がより入手しやすい仕組みが生まれている。

【事業内容】

1) ESD および ESD の 10 年に関するさまざまな動きの情報発信

理事や会員との連携を強化し、ウェブサイト及びメーリングリストにおけるタイムリーな情報発信にパワーをシフトする。また、ウェブサイト上に操作性の高い「web 版 ESD レポート」を実現し、情報発信にかかわる協力者を増やすことで、頻度の高い情報発信につなげる。また、メルマガおよびフェイスブック等との連動で、会員ネットワーク外への情報発信力を高める。

これに伴って、紙媒体である「ESD レポート」をスリム化し、年 2 回の発行とする。

2) ESD 普及のための研修・講師派遣

ESD に関連する各種講演や研修等の依頼に応じて、ネットワークから適切な講師を派遣する。また、研修企画の協力も行う。

企業に向けては、立教 ESD 研究センターが開発した企業向けサステナビリティ研修カリキュラムなどを活用する。これらの活動を通して、ESD への共感者を増やし、会員、支援者の増につなげる。

III. 実施体制について

1. 役員等

代表理事	阿部治、重政子
副代表理事	池田満之
理事	池田誠、大島順子、小金澤孝昭、新海洋子、壽賀一仁、杵本育生、鈴木克徳、関正雄、長岡素彦、名執芳博、竹内よし子、三隅佳子、村上千里、森良、吉澤卓
監事	浅見哲、吉岡睦子
顧問	池田香代子、岡島成行、廣野良吉、坂本尚、CWニコル

* 役割

震災復興・地域再生支援	主な担当理事：小金澤孝昭、長岡素彦
学校と地域の連携による ESD 推進	主な担当理事：池田満之、森良
地域における ESD 推進および コーディネーターの社会化	主な担当理事：壽賀一仁、森良
国際ネットワーク推進	主な担当理事：鈴木克徳、名執芳博
普及啓発・情報収集・提供	主な担当理事：吉澤卓、長岡素彦
2014 年、2015 年以降に向けた準備	主な担当理事：阿部治、重政子、関正雄

地域担当理事：	【北海道】池田誠	【東北】小金澤孝昭
	【関東】森良	【北陸】鈴木克徳
	【東海】新海洋子	【近畿】杵本育生
	【中国】池田満之	【四国】竹内よし子
	【九州】三隅佳子	【沖縄】大島順子
組織運営理事	阿部治、重政子、池田満之、鈴木克徳、村上千里	

2. 事務局

事務局長（常勤）	・・・村上千里
スタッフ（常勤）	・・・長澤正嘉
（非常勤）	・・・山本かおり、飯島邦子、宮崎裕子
契約スタッフ	・・・野口扶美子、後藤尚味